

ダイジヨウジ 大乘寺 鹿島郡七尾に在つて、眞宗西派に屬する。

ダイジヨウジ 大乘寺 鳳至郡宇津に在つて、日蓮宗に屬し、法立山と號する。元和元年禪勝坊日泉の創立で、妙成寺日條を開山とする。

ダイジヨウジ 大乘寺 鳳至郡宇加塚に在つて、淨土宗に屬する。寛永十二年岷譽文慶の開基といふ。

ダイシヨウジオアツケギン 大聖寺御頸銀 大聖寺藩が常に銀子若干を加賀藩に託し、藩士に貸與し利息を取り、以て収益を圖つたもの。嘉永六年の記録に『諸方御土藏へ上納銀之内、大聖寺御預銀御貸渡之外は、都而一口に打込云々』など見える。

ダイシヨウジガハ 大聖寺川 江沼郡の南境大日山の大日池に源を發し、北流の後、小大日山に發して女郎ヶ瀧・千束ヶ瀧をなす湊流千束瀧川を合はせ、又西流して九谷に至り、東谷奥村より流れる上新保川を合はせ、益西流して富士寫ヶ岳の北麓を繞り、片谷に於いて片谷川を入れ、我谷の西方落合橋に於いて大内川を容れ、それより急に東北に折れて山中の奇景を刻み、西北に折れて遂に平原に出で、上河崎附近より西に折れ、大聖寺の市街を貫通し、こゝで南から三谷川と熊坂川とを合はせる。三谷川は江沼郡の西方國境なる刈安山及びその附近より發する三流を合するもので、その間直下・日谷・百々等を過ぎ、菅生を経て大聖寺町に來るのである。大聖寺川の本流は、是より海岸砂丘の内側に添うて蛇行し、越前北潟を通じて日本海に入る。山中川・敷地川・福田川等は各その局部に於ける稱で、

流程全長四四軒、下流一〇軒間は舟運の便がある。流末は廻國雜記にいふ洲濱川で、紆餘曲折を極め、水勢殊に緩慢であるから、動もすれば上流に汎濫する。

ダイシヨウジガハシンカハ 大聖寺川新川 大聖寺藩主前田利明の時、大聖寺川の水路を改めたものをいひ、寛文五年五月着手、延寶二年成功した。舊水路は、敷地橋の下から耳開山の丘陵下を過ぎ、菅生川を合はせ、荒町裏に沿ひ、山田町裏に激突して犀ヶ瀧の深潭をなし、東北及び西北に迂回して福田橋に至るを本水路とし、別にこの曲線の頸部を連續する小川があつた。その小川を擴大して、迂回線を埋め、以て水害を防いだものである。

ダイシヨウジギヌ 大聖寺絹 江沼郡大聖寺町附近に於ける製絹業の沿革は、元祿以降に至つて漸く知られ、大聖寺藩主前田利章は正徳年中庄村の餅屋彦八を絹肝煎たらしめて、藩内の製品凡べてその検査を経た後京都に賣出したと傳へる。彦八の子孫彦九郎・彦右衛門も亦その職を襲いだ。然るに延享中澤屋仁左衛門が庄村より大聖寺に移つてその業を起すに及び、大聖寺の製絹は遂に庄村のそれを壓倒することになつた。↓サハヤニザエモン 澤屋仁左衛門。

ダイシヨウジケン 大聖寺縣 ↓ケンセイ 縣制。

ダイシヨウジコウキヨカン 大聖寺侯居館 大聖寺侯の大聖寺町なる居館は、武鑑に江戸を去ること、東海道經由百三十九里、北陸道經由百四十八里、東山道經由百四十八里と記してある。邸地は背に古城の丘陵を負ひ、前に大聖寺川を扣へ、面積一萬八千九百四十六

歩。固より城郭の制ではない。是を以て藩主前田利直が、元祿十二年分限帳を幕府に提出した時には居城大聖寺と書いたが、十五年八月に出した時から居所と改めた。これ同年の春、藩の繪圖を提出した時、秋元但馬守から今後居所と書くべき指令を得たからであつた。また利直が幕府の奥詰を勤めてゐた時、年月は不詳であるが、老中等と親近なるを以て大聖寺築城の願書を出したが、かくの如きは宗藩を通じて爲すべきこととして却下せられたこともある。築城などは當時の財政上思ひもよらぬことであるが、利直はやはり城主の稱を得たかつた爲であらう。その館舎の委曲に就いては、舊記缺如して傳はらぬが、唯僅かに秘要雜集に『其御殿の圖、于今作事所に在りて吾も見る。大きな御書請なり。御廣式は、今の御用所の後より斜曲尺にかけてあり。』との記述を見るのみである。斜曲尺とは、邸地良位の一角を缺いた所をいふのである。元祿六年七月十四日午刻、家中内田入右衛門の家より火を失し、偶東南の風威猛烈であつたため延焼して殿閣一つも残存しなかつた。而してこの後藩侯利直は寶永元年六月初度の入部をなし、新殿を造營せしめて之に移つたが、その再建したものを圖によつて算するに、表建坪五百五十歩、廣式四百二十歩に互り、後嘉永三年利義の時表に五十五歩を増築した。五年又利極夫人の爲に梅の廣式を建てたが、文久三年更に同夫人の爲に桃の廣式を建てたため、梅の廣式は利義夫人の居室となつた。

ダイジヨウジサカ 大乘寺坂 金澤に在つて、元祿年中まで此の坂の下に大乘寺があつ

たための名稱である。初め此の坂道の間なる崖縁に數戸の町家があつたが、廢藩後追々之を毀ち、明治十九年に出羽町・鷹匠町・欠原町に互る地が歩兵第七聯隊の練兵場となつた際坂路をも廢した。

ダイシヨウジカタ 大聖寺地方 江沼郡西庄に屬する部落、或は大聖寺町領ともいうた。明治中大神寺町に併合せられた。

ダイシヨウジヨウ 大聖寺城 江沼郡大聖寺町の今錦城山又は御城山と稱する地に在つた。蓋し白山五院中大聖寺の在つた所なる故に名づける。城名の初見は太平記に、建武二年名越太郎時兼が加賀・越中・能登の兵を從へて上洛せんとした際大聖寺城に據つたが、土豪敷地・上木・山岸・福田等の爲に亡ぼされたと記された時にある。その後津業五郎清文こゝに居り、延元二年脇義助の配下畑六郎左衛門時能に黨した敷地・上木・山岸等に攻められて城陥落した。文明の頃一向一揆等國內を横行し、大聖寺城亦その有に歸した。弘治元年朝倉宗滴侵入して之を占領し、この後或は一揆方に歸し或は朝倉方に歸した。永祿七年朝倉義景等深く能美郡に入り、大聖寺城に守兵を置いたが、十年將軍足利義輝は義景に命じて一揆と和せしめ、朝倉方はこの城を燒いて誠意を示した。天正三年織田信長、その將柴田勝家をして加賀に侵入せしめ、大聖寺城を修めて戸次右近廣正に之を守らせ、佐々權左衛門・堀江景忠を副とした。八年勝家等又一揆を討ち、拜郷五左衛門家嘉をこの城に置き、十一年四月家嘉の近江柳ヶ瀬の役に死するに及び、六月羽柴秀吉は溝口金右衛門秀勝を大聖寺四萬四千斤に封じて伯耆守と稱せしめ、